

加藤盛一と高島

旧制県立今津中学校 初代校長

藤樹先生全集

日本陽明学の祖や近江聖人と称され親しまれる中江藤樹（1608～1648）が近江国小川村（現在の安曇川町上小川）に生まれて今年で415年になります。その間、多くの人々が藤樹の研究に携わり、現在でも資料などを通して、藤樹の教えや人物像に触れることができます。中でも大正から昭和初期にかけて藤樹研究を行った加藤盛一（もりかず）（1884～1945）は、学術的にも、また現在の高島市にとっても重要な人物です。広島県出身の加藤は、広島高等師範学校、京都帝国大学文科大学哲学科を卒業して国語・漢文の教師となり、大正9年（1920）に旧制県立今津中学校（現在の県立高島高等学校）初代校長に就任しました。藤樹の研究を行い、その学徳を学校教育の中に取り入れることが就任の条件であったため、本格的な研究に着手したと考えられます。

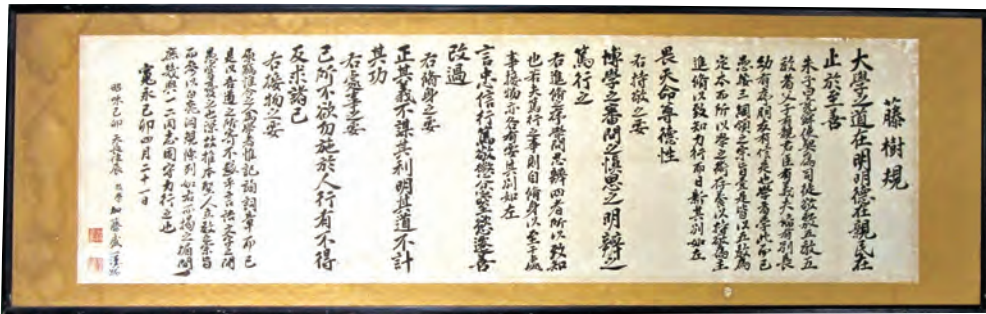
この頃、県立中学校の設立とともに推し進められた藤樹神社の創立事業の中で、中江藤樹の全集編さん事業が計画され、加藤が編さん主任に就任しました。校長就任から3年後、加藤は旧制高知高等学校に転任し、その後京都帝国大学大学院で学びながら、編さんメンバーとともに滋賀県下や大洲、岡山などへ何度も赴き調査を行いました。厳密な検証のもと約10年の歳月を費やし、昭和3年（1928）ついに『藤樹先生全集』（全5巻）が刊行されました。同15年（1940）には増訂再刊本が刊行され、再び編さん主任を務めたほか、『藤樹先生遺墨帖』（藤樹頌徳会発行）の編さんや、論文も多く発表しました。



藤樹先生全集
(近江聖人中江藤樹記念館蔵)

敦厚剛毅

晩年、加藤は故郷の広島文理大学の教授に就任しましたが、昭和20年（1945）広島に投下された原子爆弾に被災し、生涯を終えました。加藤が精魂を尽くして手掛



加藤盛一書 藤樹規(個人蔵)

けた全集や遺墨帖は、藤樹研究のバイブルとして、現在も多くの研究者の元で役立てられています。加藤の遺したものは文献資料だけではありません。『敦厚剛毅』は現在も高島高校の校訓として創立時から続く言葉で、『敦厚』はまごころが厚いこと、『剛毅』は意志が強く何事にも屈しないという意味です。加藤は中江藤樹の人となりを表す言葉としてこれを掲げ、未来を担う若者たちに、思いやりと強い心を持つ人になってほしいという願いをこめました。加藤は高島の未来に、中江藤樹の志を繋いだ代表的な人物であると言えるでしょう。

近江聖人中江藤樹記念館
☎ (32) 0330

編集感

今回の表紙は学校給食を食べる子どもたち。みんなとっても良い顔をしながら楽しそうに給食を食べていました。今月号はそんな学校給食についても特集しています。給食は子どもたちのすこやかな成長のため、さまざまな工夫を凝らして作られています。給食レシピのご紹介もしていますので、ご興味のある方はホームページもあわせてご覧ください。(M)

広報たかしま

令和5年

7

月号

No.282

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課
〒500-8501 滋賀県高島市新旭町北畑5の10番地

0740(25)8000(代)
https://www.city.takashima.lg.jp
t:info@city.takashima.lg.jp